

隠岐島後で記録したクワガタムシ

谷角素彦・黒井和之

隠岐は、島根半島の沖約60kmに位置する島々で、もっとも大きな島である島後、それに島前と呼ばれる西ノ島・中ノ島・知夫里島などからなる。

隠岐のクワガタムシについては、門脇(1983)が10種をあげているが、このうちツヤハダクワガタ・オオクワガタ・ヒメオオクワガタなどの記録は、文献からの引用のようで疑問視すべきものである。最近出版された図鑑類などを見ても、隠岐を分布地として採りあげているものは少なく、藤田(1985)はコクワガタ1種のみ、岡島・山口(1988)はコクワガタとミヤマクワガタの2種をあげているにすぎない。これは、この地域のクワガタ相調査そのものが不充分であることを意味している。蝶の分野では、いちおうのまとまりがついていること、同じ日本海の離島でも対馬のクワガタムシはよく調べられていることなどを考え併せると、意外な気がする。

我々は、「ヒラタクワガタがいるなら本州タイプのものか対馬タイプのものか、思わぬ種類が採れたりしないか」などと頭の中であれこれ考えながら、1988年の盆休みに島後へ渡島した。短期間の調査で成果はそれほどあがらなかったが、以下に我々が採集したクワガタムシの全データと若干のコメント、また当地のクワガタムシは図示されることが少ないと思われるので、その標本写真を示しておく。

《データ》採集地は、すべて島後の布施〜大満寺山間

1. ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

1♂, 1988-VIII-13; 2♂ 1♀, 1988-VIII-14

♂はいずれもクリの幹を蹴って落ちてきたもので、小型個体。♀は車のライトに飛来した。

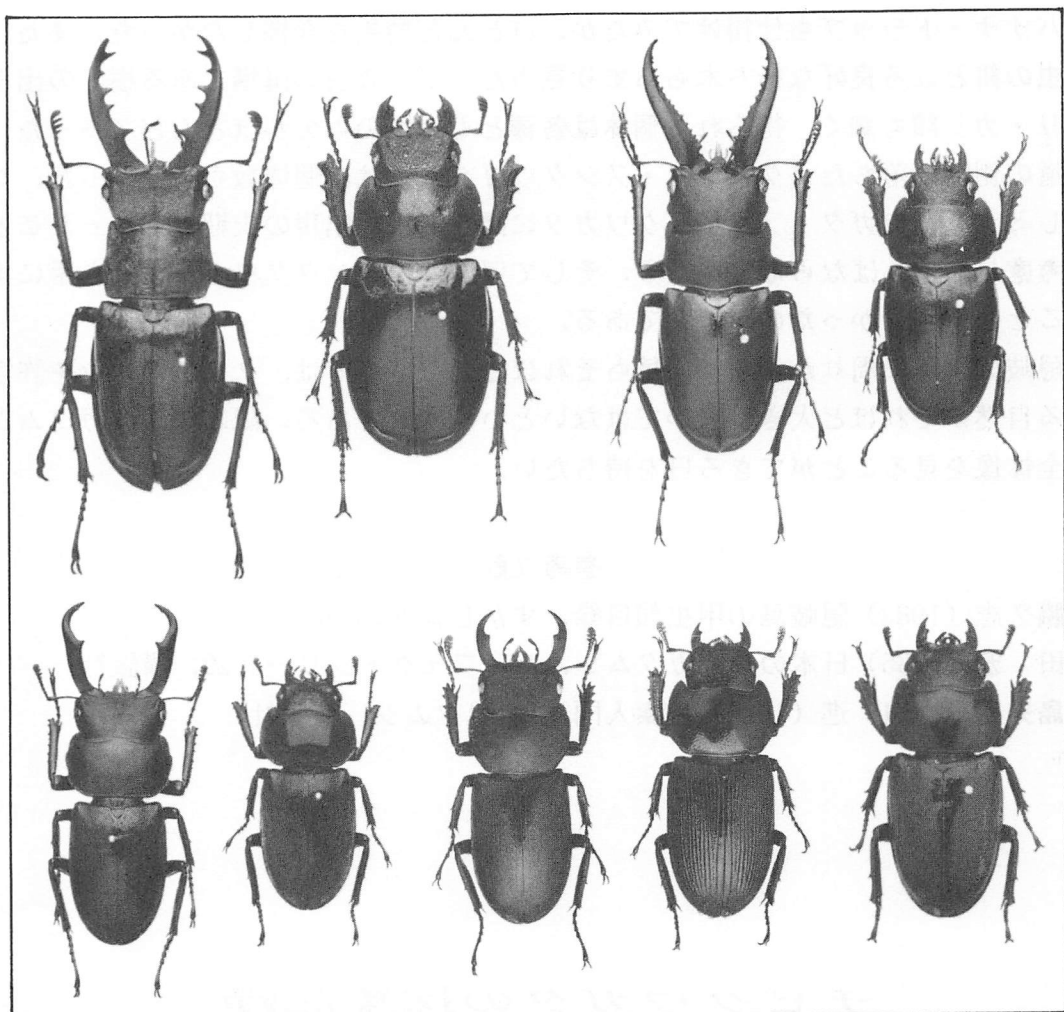
2. ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*

1♂, 1988-VIII-13; 1♂ 1♀, 1988-VIII-14

クリの幹を蹴って落としたものを採集。やはり小型個体。

3. コクワガタ *Macrodercas rectus*

1♂ 4♀, 1988-VIII-13; 5♂ 2♀, 1988-VIII-14



(上列左より) ミヤマクワガタ♂♀, ノコギリクワガタ♂♀
 (下列左より) コクワガタ♂♀, スジクワガタ♂♀, ヒラタクワガタ♀

側溝に落ちたものがほとんどで、1♂をトラップで得た。

4. スジクワガタ *Macrodorcas striatipennis*

3♂5♀, 1988-VIII-13; 1♂2♀, 1988-VIII-14

側溝に落ちているものを採集。死んで干からびたものも多かった。

5. ヒラタクワガタ *Serrognathus titanus*

1♀, 1988-VIII

子供が採集して飼育ケースに入れていたもので、詳細は不明。

バナナ・トラップも仕掛けてみたが、ほとんど効果を発揮しなかった。また、幼虫の餌となる良好な朽ち木もあまり見当たらず、成虫の餌場である樹液の出るクリ・カシ類も細く、得られた個体は各種とも小型のものがほとんどであった。林道の側溝に落ちたコクワガタ・スジクワガタ以外は、個体数も少なかった。ただしミヤマクワガタ・ノコギリクワガタに関しては、出現の末期にあたったことを考慮しなければならないだろう。そして何より、ヒラタクワガタの♂を手にすることができなかったのが残念である。

隠岐のように周りから離れ面積もそれほどでない島では、クワガタムシを許容する自然がそれほど大きく豊かではないという印象である。隠岐のクワガタムシの全体像を見ることができる日を待ちたい。

参考文献

門脇久志(1983) 隠岐島の甲虫類目録, すかしば20:3-20.

藤田 宏(1985) 日本のクワガタムシ, パーフェクトシリーズ20, 講談社.

岡島秀治・山口 進(1988) 検索入門 クワガタムシ, 保育社.

チビクワガタの採集記録

上田尚志

サクラの朽木より得られたチビクワガタについて、採集記録と産出状況を報告しておきたい。

<和田山町枚田岡>

円山川の支流に沿った土手にサクラ並木があり、ここにチビクワガタが生息する。発見当初は、いずれも地面に落下した、かなり腐朽が進んだ朽木より得られていた。その後、このサクラ並木を調査したところ、地上部の枯れ枝より多数の個体を得ることができた。